



2004 年度前期

「学生による授業評価アンケート」全学集計結果

発行：法政大学 全学FD推進委員会 2004 年 11 月

学生による授業評価アンケートの概要

法政大学では、6月下旬から7月中旬までの3週間にわたって、「学生による授業評価アンケート」を実施しました。こうした全学規模でのアンケートは、本学では初めての試みです。アンケートの対象となったのは、学部、大学院修士課程、専門職大学院学位課程で開講された前期科目です。ただし、アンケートが適当でない判断された科目は実施していません。また、社会学部のように、前期は試験的に参加した学部もあります。後期科目および通年科目は、後期に同様のアンケートを実施します。

大学全体では、3,123 科目で実施され、延べ 125,028 の回答がありました。アンケートにご協力いただいた学生、大学院生の皆さんに感謝いたします。回答いただいたアンケートは、すべてデータとして処理され、タイプした自由記述と共に各教員に通知されています。なお、教員はアンケート用紙そのものを見ることはできないことになっています。

授業評価アンケートのねらい

「法政大学学生生活白書 2003」によると、「最も充実・改善を望む教育・サービスはどれですか」という問いに対して、58.9%の学生が「授業内容・授業方法」を挙げ、項目の1位になっています。市ヶ谷、小金井、多摩の各キャンパスでもすべて50%を超え、正課授業の改善は急務であると言えます。

今回、「学生による授業評価アンケート」を実施したのには、二つの大きな目的があります。一つは、教員が学生の率直な意見や感想に耳を傾け、受講生の立場から自分の授業を知ることです。もう一つは、こうしたアンケートを実施することで、大学全体で授業内容や授業方法の改善に取り組むためです。いずれも、大学の教育の質を向上させようというねらいがあります。

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組みを「ファカルティ・ディベロップメント」(Faculty Development 略称FD)と言います。法政大学でも、2003年11月に「全学FD推進委員会」を設置し、FD活動を開始することになりました。

学生による授業評価は、すでに国内の大学では広く行われています。2002年度に学生による授業評価を実施した大学は、国立大学 97(98%)、公立大学 61(81%)、私立大学 416(81%)で、全体では574大学(84%)に上ります。

アンケート結果の公開について

学生のみなさんは、自分が受講した授業の評価について関心があると思います。また、他の授業の評価を知り、履修の参考にしたいと思うかもしれません。しかし、全学FD推進委員会としては、今回のアンケートについて科目ごとの結果を公開しないことにしました。法政大学における授業改善の試みは始まったばかりで、今回のアンケートがスタート地点です。今回は結果の公開よりも、アンケートの内容が実際の授業に反映されることを期待しています。今後も公開については検討していきま

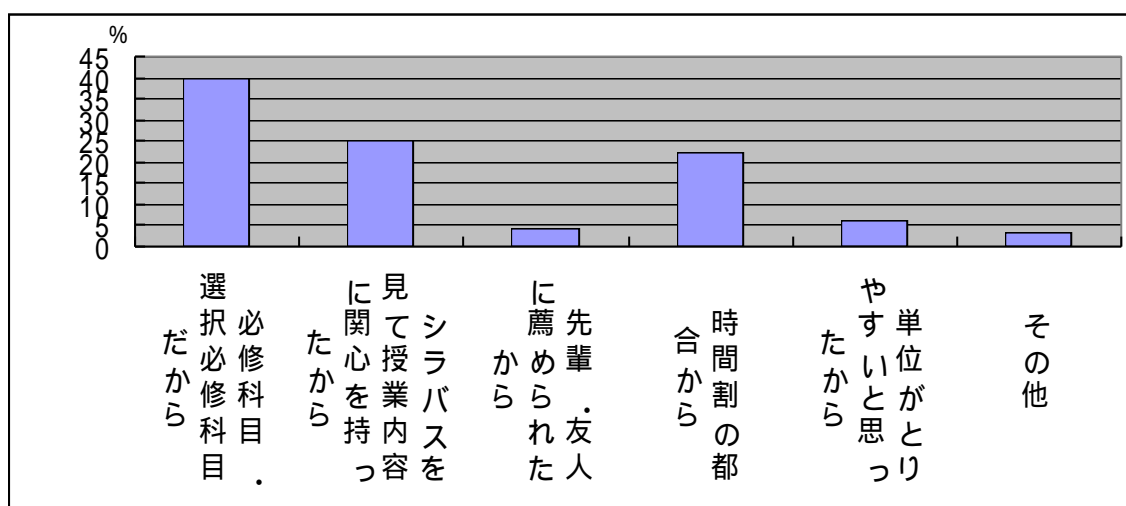
すが、学生のみなさんにはご理解いただきたいと思います。

全学集計結果 (2004 年度前期)

1. 履修の理由 - 「単位のとりやすさ」よりも「授業内容」と「時間割の都合」から

授業を履修した理由(複数回答可)は、「必修科目・選択必修科目だから」(40.0%)が最も多かった。「シラバスを見て授業内容に関心をもったから」(25.3%)「時間割の都合から」(22.1%)が続き、「単位がとりやすいと思ったから」という回答はわずか6.3%しかなかった。時間割とシラバスが履修の決定に大きな役割を果たしていることがわかる。

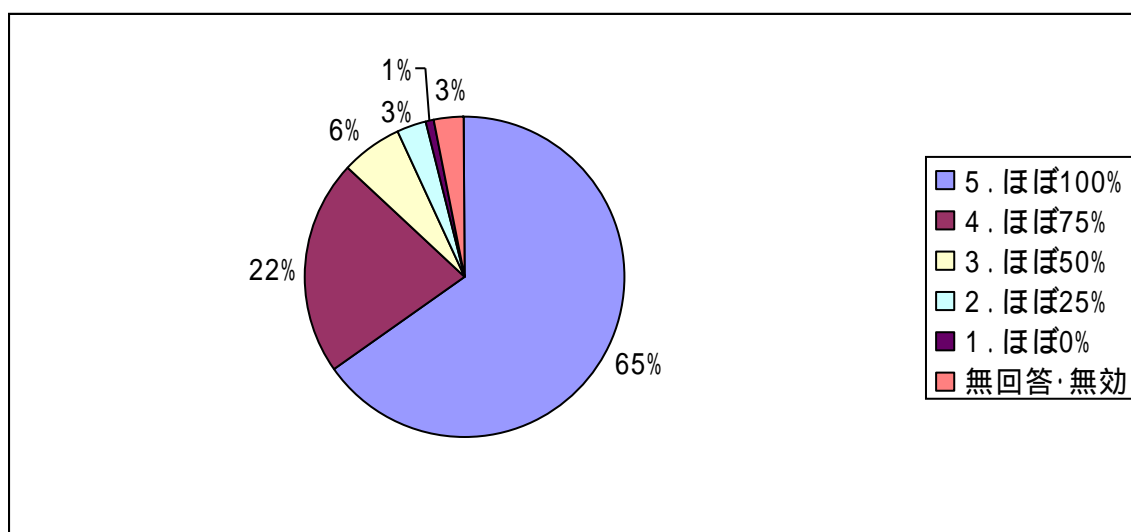
問1. この授業を履修した理由を教えてください(複数回答可)



2. 授業への出席 - 回答者の出席率は高い

授業への出席率は科目の種類によって異なるが、全体では「ほぼ100%」と「ほぼ75%」を合計すると87%になり、アンケートに答えた学生の出席率は総じて高いと言える。

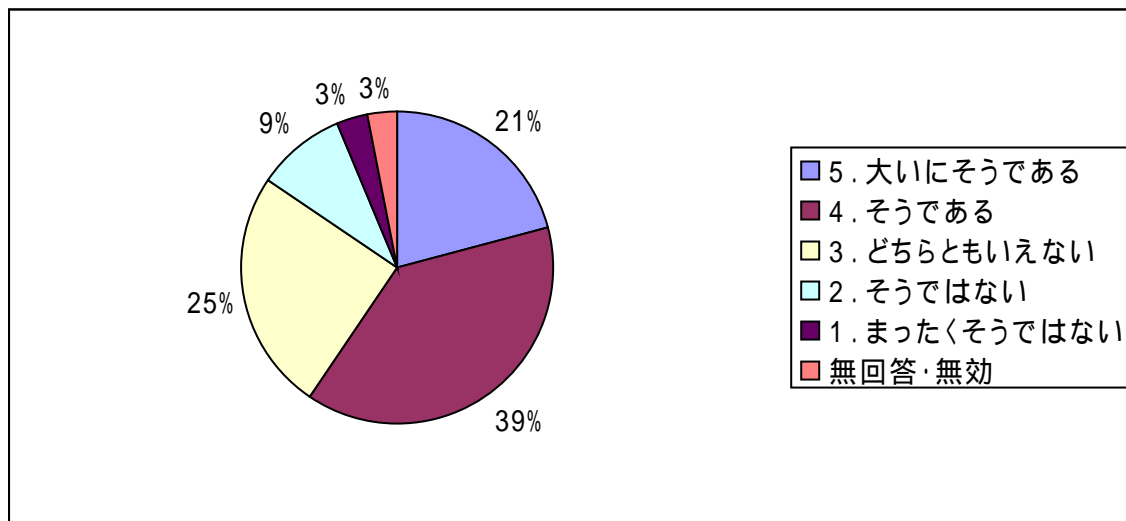
問2. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。



3. 授業への取り組み - 出席することが取り組み?

この問は、本来授業内容への取り組みを問う設問である。約 6 割の学生が授業に積極的に取り組んだと回答しているが、これを出席率別に見ると、出席率が高いほど積極的に取り組んだと回答する割合も高くなっている。

問 3 . あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか。

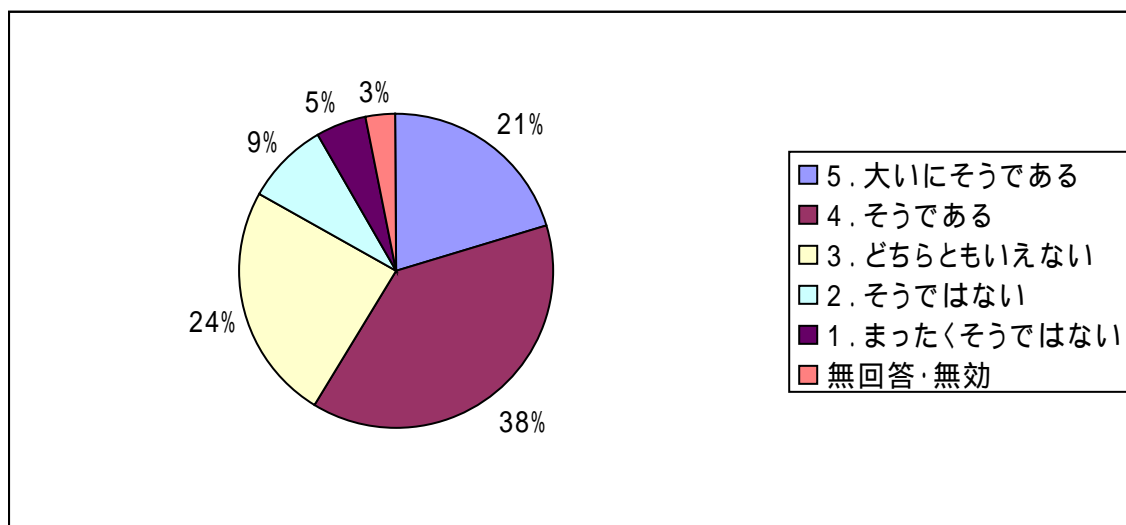


4 . 授業内容には 6 割が興味示す

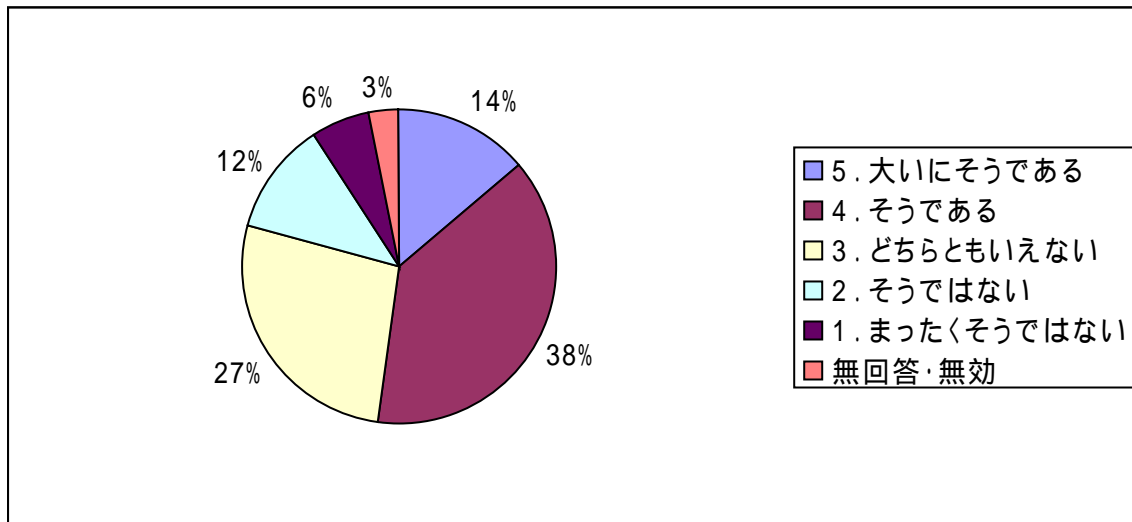
5 . 内容の理解は、半数止まり

ほぼ 6 割の学生が授業内容に興味を示し、約 5 割の学生が内容を理解できたと回答している。しかし、75%以上授業に出席した学生に限ってみても、その 4 割は授業に興味を持てず、2 人に 1 人しか内容を理解していない。

問 4.この授業の内容に興味を持てましたか。



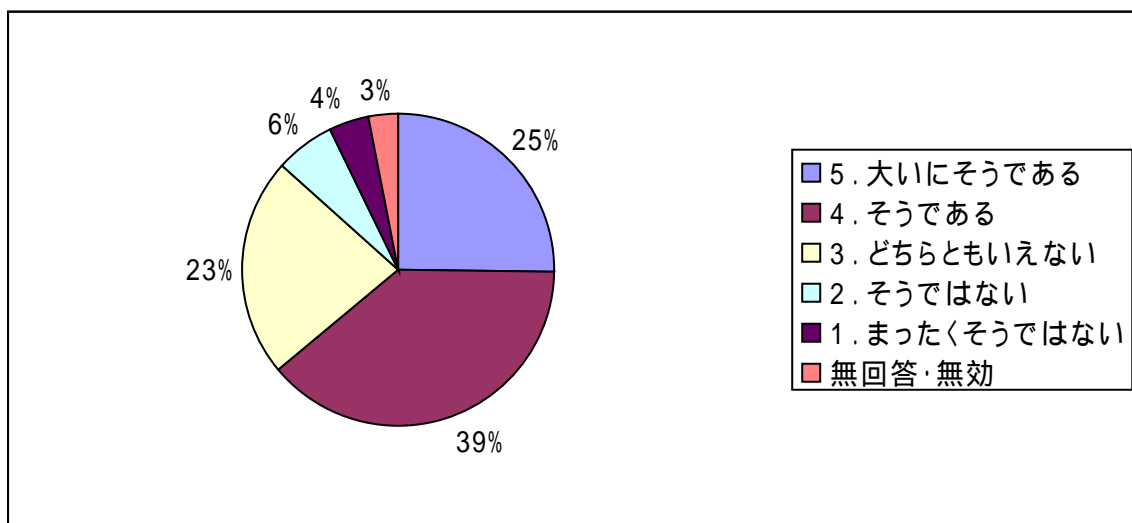
問 5 . この授業の内容は理解できましたか。



6. 教員の熱意 - 4人に1人は熱血教員

「大いにそうである」(25%)と「そうである」(39%)を合わせると、およそ6割の科目で教員の熱意が学生に伝わっている。その一方で、23%の科目では、それほど熱意が感じられず、10%の科目では教員の熱意がないと学生は判断している。

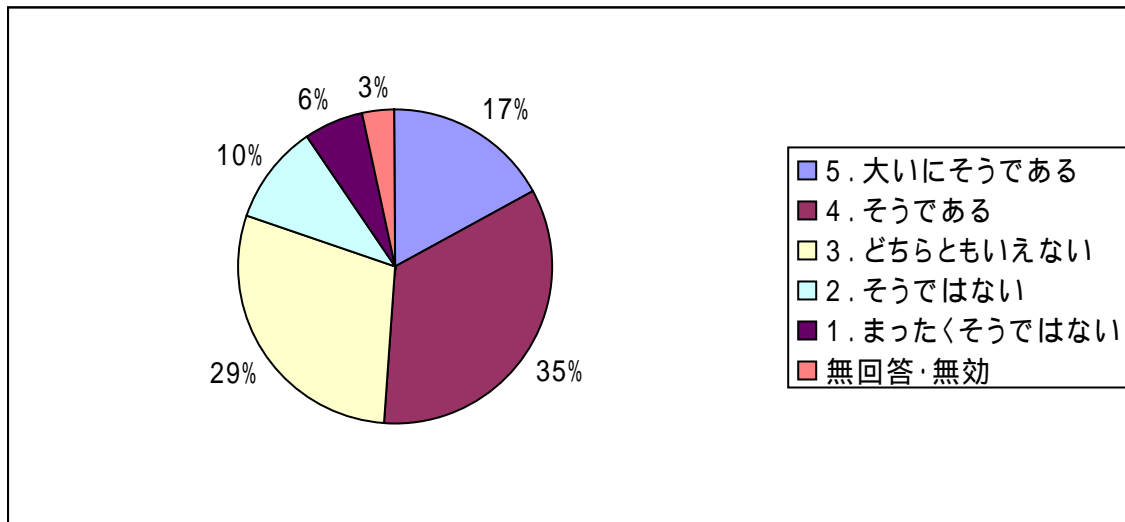
問6. この授業の教え方は熱意が感じられるものでしたか。



7. 授業のわかりやすさ - 16%はわからない授業

高校までのカリキュラムに沿った授業や塾・予備校のわかりやすい授業を受けてきた学生にとって、大学の授業が難しいことは十分に予想される。高度な内容であっても、学生がわかるように伝えるのが教員の技術である。アンケートの結果、52%はわかりやすい授業である。しかし、「そうではない」と「まったくそうではない」を合わせた16%の授業は、わかりにくい授業であり、教え方について改善する必要がある。

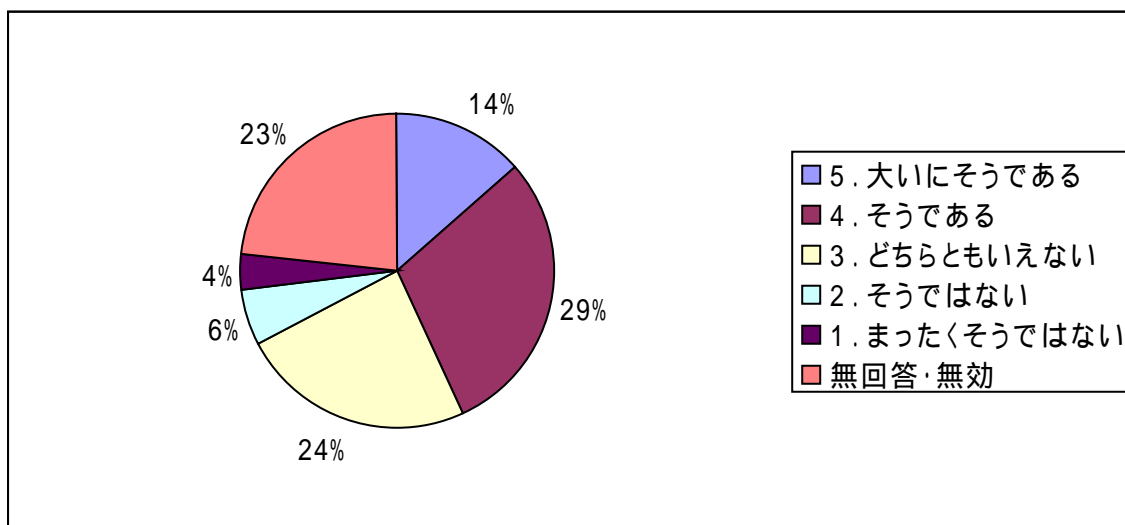
問7. この授業の教え方はわかりやすく工夫されていましたか。



8. 使用教材 - 4 割は適切とは感じられず

無回答・無効の 23%を除くと，使用教材が授業の内容理解に適切と回答した割合は，約 56%で，およそ 4 割の授業では適切とは感じられていない。「何を」教材にし，「どのように」使用するかについて，教員は今一度考えてみる必要があるだろう。

問 8 . 使用教材はこの授業の内容を理解するのに適切でしたが(教材を使用していない場合は回答しなくてよい)

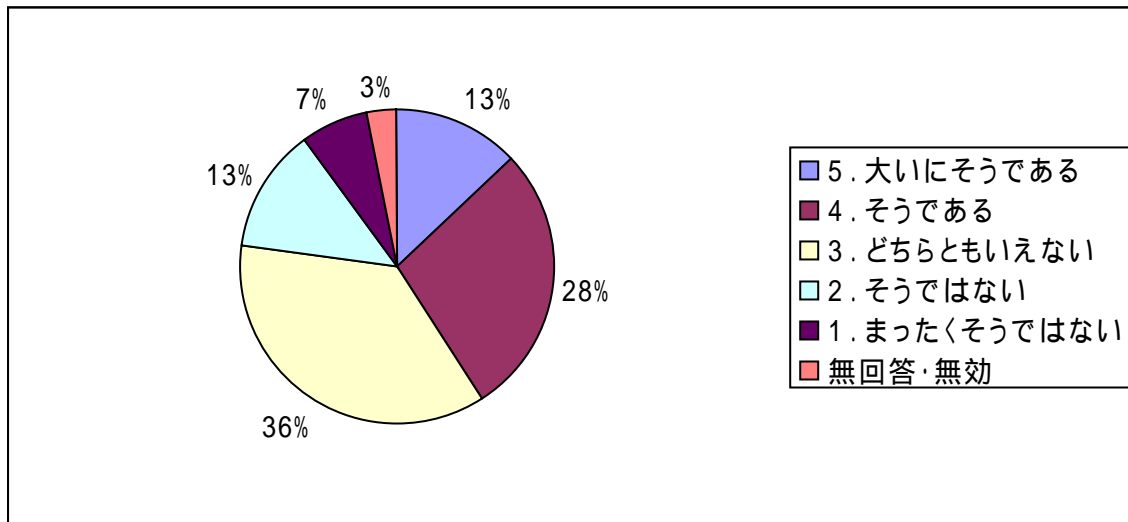


9. 学生の参加意欲を促す授業か? - 4 割が参加を促す

大学には，講義科目以外にも，演習，外国語，実験，実技，実習などの科目がある。学生の参加を前提とする科目とそうでない科目があると一般には考えられている。しかし，講義科目でも，学生に課題を与えてグループで討議させたり，学生に問題を発見させる講義もある。また，演習や実習で，教員が一方的に講義をしたり，学生がやらされている場合すらある。

アンケートの結果，およそ 4 割が学生の参加を促しているものの，大半の授業が教員から学生への一方通行で行なわれていることがうかがえる。

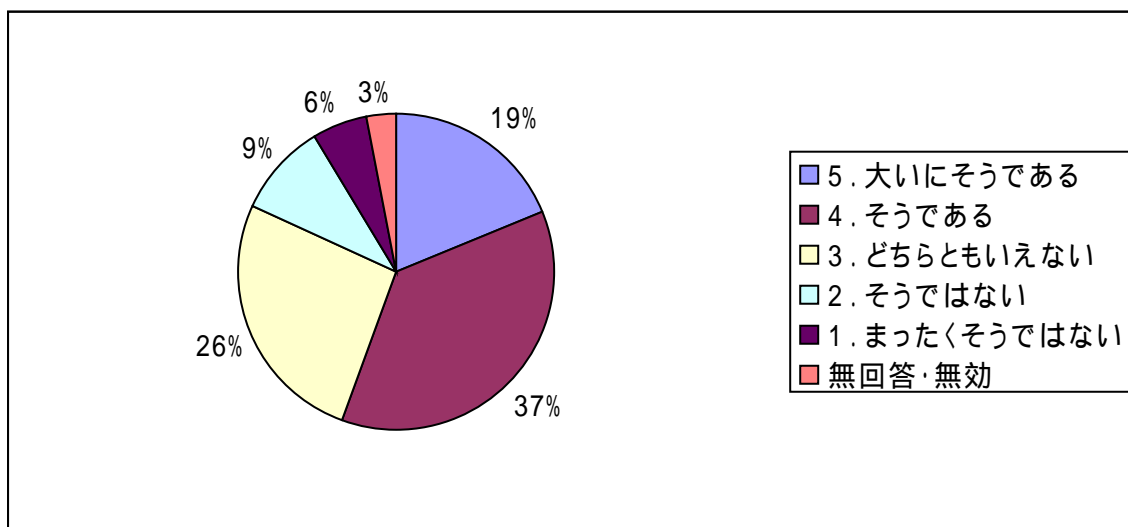
問 9 . この授業では学生の参加意欲が促されるような工夫がなされていましたか。



10. 授業の満足度 - 56%が満足

56%の授業は満足のいくものであるが、15%の授業は何らかの理由で学生の不満がある。授業の満足度は、受講生の側から見た一つの指標である。学生がどこに不満を持っているのかについて教員が知り、授業の改善につなげることができれば、満足度も上昇すると考えられる。

問10. この授業は総合的に見て満足できるものでしたか。



2004年度後期アンケート 実施期間

後期についても前期と同じ形式でアンケートを実施します。対象となる科目は、後期、後期集中、通年科目です（一部実施しない科目もあります）。実施期間は、原則市ヶ谷・多摩地区については12月2日（木）から12月22日（水）、小金井地区については12月16日（木）から1月19日（水）までとなっています。

法政大学の授業改善のために、皆さんの率直なご意見をお寄せください。ご協力をお願いします。

お問合せ窓口：法政大学学務部学務課（九段校舎別館2階）

TEL 03(3264)9929 / FAX 03(3264)9876 / E-mail : kyogaku@hosei.ac.jp